





分水嶺を歩く第1回

足立山へ… (3月4日)

山口のすぐいており、 字の交差点になるのだが、 された二車線の道路になり、 となる。ここは、 はなっでに未舗装道となり山を登り始める。およそ二十分で最初の登山口ははすぐに未舗装道となり山を登り始める。およそ二十分で最初の登山口で、注意が必要だ。左に行くと上村役場となる。ここを右折し林道に入る。 すされた二車線の道路になり、やがて右手に白髪岳登山口の標識がある。 十県道四十三号線へと入る。入って一時は狭い道路であるが、途中から拡幅 県道四十三号線へと入る。入って一時は狭い道路であるが、 してきた狸を敷く事 び申し上げます。 ても見つからない状態となっていたらしい。 後で解ったのだが、 しまって、 路を降りてからすぐに他の車と勘違いして同行の安藤さんの車とはぐれて を強いられた。 いた。そのため、 .口のすぐ先には林道に柵がしておりそこから先は一ており、先の登山口から登ることとし、新しい登山 百 地方にある山。 高速を降りてから湯前方面へ国道二百十九号を錦町へ向 m先に楽な登山口 探したものの見つからなかったのでそのまま登ることとなった。 また、この日は車三台で行くことになったのだが、 阿蘇外輪山の滝室坂ではうつすらと積雪し、 五十七号線を経由して熊本に出て、高速で人吉まで行き、 当口がある」と書いており、先の登山口から登ることとは林道に柵がしておりそこから先は一般旧道で「ここから出口から登ることとし、新しい登山口へと向かった。登旧道で「ここから四○○m先に楽な登山口がある」と書 また、この日は、竹田ドライブインの先で、 折しも、 件もあって憑いてなかった。 はぐれたことに気が付くのが遅れたため、 寒波襲来のため、 山間部では積雪の予報が出て この場を借りて、 加者は四名。 か 途中から拡幅かい、錦町から のろのろ運転 回 突然飛び出 すでに探し がしてお は熊本の 高速 道 EK

白髮出

(一月月例登山報告)

佐

くじ 白髮岳~ 俵山へ 2 仰鳥帽子岳、六本杉山 2 冠嶽、金峰山 3 今度のテーマは分水嶺 4 平成12年度登山記録 4 私の無名山ガイドブック⑤ 5 2001年度支部 総会終わる 6 総会の返信より 7 おススメ映画 7 お知らせ 8 8 後記

まれており、これは珍しい。 四方の有田焼の焼き物が埋め込 結をしているという一メートル 場になっている。祠の横を通り さを演出する。尾根道は、若干 界。木々には霧氷が付き、美し 積雪はさらに増え、一面の銀世 り、さらに歩きやすい。およそ 登山道はうっすらと積雪してお とはあり、緩やかな登りである。 う。楽な登山口というだけのこ 最初のピーク、猪ノ子伏へ向か をして、午前七時三十分出発。 心配だったようだ。早々に準備 なかった。はぐれた安藤さんが れるかと思ったが、何も言われ 覚ます。寝坊したと思い、怒ら にある「黒髪山」と姉妹山の締 前九時三十分到着)。山頂には およそ三十分で山頂に到着(午 五十分で三池神社に到着。高さ と向かう。猪ノ子伏からおよそ の上り下りを繰り返し、山頂へ 二十分で尾根に出る。猪ノ子伏 ニメートルほどの祠があり、広 に到達。ここから尾根道を進む。 一等三角点の他、佐賀県有田市 午前七時に西さんの声で目を 頂上で、バンザイと記念撮影

に戻った。

ともあって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 に登ろうということになって、 のた。熊本空港あたりまでは降 口に到着したときには強風と降 雪となり、とりあえず登山の準 雪となり、とりあえず登山の準 でになった。常日頃唱えている とになった。常日頃唱えている とになった。常日頃唱えている。 で全天候型登山」はどこへやら。

(孝)、西野 参加者 安藤、佐藤(秀)、西

(阿蘇南外輪山)

一月月例山行報告

も無事通過し、黎明の阿蘇五岳国道五七号線坂梨の下りカーブ面の凍結が気がかりであったが、面の凍結が気がかりであったが、二月一八日(日)早朝五時サニ月一八日(日)早朝五時サニ

なかったこともあってすぐに下

をし、ガスっていて天候が良く

な野から阿蘇大橋を渡り南阿蘇立野から阿蘇大橋を渡り南阿蘇 で阿蘇谷から大津に米を運ぶ牛立 で阿藤谷から横本市で 内に通じる近道として車の往来で も頻繁である。峠には舗装された た広い駐車場があり展望所の建った ないむ、

反を直登する。雪解すり黒上が反を直登する。雪解すり黒上がない、佐藤(正)さん、佐藤(秀)さん、私達二人の常連にゲスト参加の英人教師(クリにゲスト参加の英人教師(クリにゲスト参加の英人教師(クリル・大人の常連藤(岩松)の八名である。

あせび等の雑木林が続く、高度 えない。台地状の草原を防火線 りとりあえず万歳三唱、展望も 滑りやすい。程なく八四八メー 坂を直登する。雪解けの黒土が ピニール袋でカバーをして助け くそうにしていると、西さんが 彼女がスニーカーのため歩きに 多くなり足元が悪い。和歌山の を着て登る。次第に残雪の量も ポツリと氷雨が降り始め、雨具 のように見える。やがてポツリ に点在する集落や木立ちが墨絵 を上げるに連れて眼下に南郷谷 沿いに歩く。杉の植林地や松、 るが雲が垂れ込めて山頂部は見 眼の前に阿蘇五岳が連なってい 開けてくるが空模様が怪しい。 トルのピークに四等三角点があ

頂である。
の良さに感心する。
の良さに感心する。
の良さに感心する。
の良さに感心する。
の良さに感心する。
の良さに感心する。

で万歳三唱とヤッホーを唱える。 で万歳三唱とヤッホーを唱える。 で万歳三唱とヤッホーを唱える。 で万歳三唱とヤッホーを唱える。 で万歳三唱とヤッホーを唱える。 や歌的な草原の展望がすばらし い山として親しまれてる山との ことであるが、ガスって何も見 ことであるが、ガスって何も見

袋』が揺れているのを見て、以 うことであったがピンと来ない また『ラッキーチャン』とも言 彼女と話していたが『ラビット のことを英人教師に聞いてみた。 ズ・アーメン』と答えたお守袋 が現地のガイドに『ジャパニー アでの話を思い出して、西さん 前聞いたことのあるアコンカグ く。西さんのリュックに『お守 始める。急な下りを用心して歩 港が近いようである。 エンジン音が聞こえる。熊本空 でなくてはならないと納得する。 やはり『お守り』は『お守り』 ・フット』という言葉があり、 風も冷たいので早々に下山を 熊本市方向からジェット機の

仰烏

子岳、

は見られなくなる。畜産農家の、人種もっている。緑の草原も野していないのか枯草がかなり多していないのか枯草がかなり多い。

高齢化などで人手が足りずボラ 高齢化などで人手が足りずボラっているようである。 展望所っているようである。 展望所の建物の中で昼食を終わり麓の久木野温泉に向かう。新しくできた村営の『木の香温泉』は立きた村営の『木の香温泉』は立きた村営の『木の香温泉』は立きた村営の『木の香温泉』は立きた村営の『木の香温泉』は立きた村営の『木の香温泉』は立ちいた。

英国人と友人 (秀)、佐藤(正)、西(孝)、参加者 安藤夫妻、小竹、佐藤



六本杉山

三月月例山行報告

飯田勝之

となっていたがばらつき始めたた天気は、予報では夕方から雨た天気は、予報では夕方から雨んどん距離を稼ぐ。心配していんどん距離を稼ぐ。心配していてど出発。夜の国道は空いていてどったが車二台に分乗し、サニー

り濡れたと言っている。 結露のせいか、雨漏りか、かな たが、テントに寝た人たちは、 海にしていた。私は車の中に寝 り続いて、朝はあたりをガスの 道脇の小広場にテントを張る。 いう感じの雨で、パラつく中で こいらはやっと今降り始めたと 着いたのが午前〇時三〇分。こ 大通峠に下ると目的地は近い。 からである。泉村に入り子別峠 のは熊本県の甲佐町に入った頃 細い糸のような雨は一晩中降 元井谷の登山口まで車で上り

た時に比べて群落が減っている 正直に言って十数年前初めて来 まや、今盛りの晩生の花もある。 るが、中にはまだ小さな蕾のま 大半は花を落としてしまってい あたりから本格的群落が続く。 上げていき、二股の谷の分かれ ると喜びの声があがる。高度を 残った花びらを見せるものがあ すぎたのだ。それでも時々散り るようになった。やはりもう遅 わった福寿草の青い葉が見られ 分ほどもすると、点々と花の終 沢の谷沿いの急斜面の山道を登 らせて、七時二〇分出発。枯れ っていくと、登りはじめて二〇 到着が遅くなったので少し遅

着くと、それまでの明るい落葉 の急斜面をジグザグ登りで登り 登るにつれ少しづつ明るくな 雨は上がるのかと期待に弾 群落地を過ぎ、ザレ場

> なると再び雨足が戻ってきた。 が期待されたのに、頂上が近く ったんは明るくなり、雨上がり 道に足を取られながら進む。い ようにドロドロで、滑りやすい あろう道は、至る所が田圃道の 盛りで登山者で賑わっていたで る。先週、先々週あたりは花の と合流し、緩やかな稜線道とな の造林地となり、仏石からの道 樹の林から一変、 薄暗いヒノキ



上げる。 り切ると頂上である。九時十五 長居は無用と早々にみんな引き 記念にと写真を撮り、後はもう ホワイトアウト。それでも登頂 雨の中、辺り一面真っ白い霧の 分到着。そこは激しい横殴りの 高度を上げ、最後の急斜面を登 緩いアップダウンで少しづつ (仰烏帽子岳山頂で)

> それでも山頂方面は深い雲に隠 すっかり明るくなっていたが、 登山口に下り着いたときは空は 花に喜んでいる。十一時十分に む傍ら、まだ点々と残っている みんな少し遅かったことを惜し れている。 と幾組かのパーティと行き違う。 て、少し腹ごしらえもする。 ザレ場の急斜面を下っていく

引き返す。 るが、一面ガスの中ではその展 うに市房山が望めるところがあ 白髪など五木の山々やその向こ い。少し東の方に下ると国見、 林地内に踏み込む。薄暗い林内 を引き返す。大通峠から端海野ろうかということになり、往路 りは適当に手頃な山を拾って登 望も期待できないのでそのまま した。樹林の中で展望はきかな で三等三角点のある頂上に到着 の緩斜面を登ると十五分足らず 近くまで車で登る。地図を頼り るが、手抜きをして林道を山頂 に適当なところからヒノキの造 ヤンプ場からの登山ルートがあ に上がり六本杉山をめざす。キ まだ時間も十分あるので、帰

た。少し歩いて展望台に上るが もちろんホワイトアウト。 んでいた雨がまた降り始めたな 次にめざしたのは矢山岳。や 車で頂上まで登ってしまっ

> た走りに走らせるだけである。 雨の中、大分に向かって車をひ 念撮影をして帰路へ。そぼ降る るだけである。二等三角点で記 の方向に見えるのか 」と想像す 示すものがあるが「そうか、こ 板に八代海や熊本市街地方面を

りあがっていた。峠で一息入れ会いあたりに戻った頃はすっか た小降りとなり、仏石からの

下り始めて三十分もするとま

出

藤 (秀) 参加者 飯田、石川、 遠江、西 (孝)、 小竹、

峰山(云三大m)へ

四月月例山行報

IE

時四○分。五反田川沿いに県道串木野市に着いたのが午後一○時間半、国道三号線を北上して時間半、国道三号線を北上して カーブも多い。 道だ。しかし、 スファルトの整備された新しい 中を抜けると上りにかかる。 ある。そこを左にとり、民家の の分岐点に西岳登山口の標識が 二四〇号を上っていくと川沿い ら高速を鹿児島へ。さらに鹿児 太郎の三名でサニー発。熊本か るい光がまだ十分ある。一姫二 いうのにもう夏の時間帯だ。明 四日午後六時、四月と 標高四五〇 途中から狭く、 m ま

だった。星がさわやかに輝い を設営したのが午前〇時二〇分 で上がった小さな広場にテント 午前四時三〇分起床。この

7

見ようと五時四五分に出発。三 めで、下りの折には滑りやす いるが、プラスチックの滑り止 ろどころ階段がしつらえられて める。まだ暗いのでキャップラ ○メートル先の登山道を登り始 るを得なかったのだ。日の出を く、もぞもぞして早めに起きざ 節、この場所にしては以外と寒 プを照らせながら登る。とこ

端に立つと遠く東の方角に霧島 西側にかけての展望は実によい。3 散策登山道を整備し、胡麻段 観した。冠嶽と東岳をメインに 真新しい石像モニュメントを拝 麓にある阿弥陀堂と徐福という て久しぶりの感動だった。 迎えることが出来た。神々しく 五分高千穂の峰の肩に日の出を Ŧi. エットがそれとはっきりわかる。 鳥居と小さな社がある。南から 頂についた。古い大きな木製の 七時五五分テント場を発って 時前には白みはじめ、六時二 系が見え、高千穂の峰のシル 二〇分少々で冠嶽(西岳)

浜を右手に見ながら金峰町に入 して金峰山に向かう。長い吹上 串木野市まで戻り、 二七〇号線から左手に見

設中で車では入れない。 らの登山道と川は砂防ダムの

楽しんだ。 摩の二大霊峰、今しがた登って る。南に開聞岳、その後ろの海 ら歩くと、ものの一五分で山頂 段を上がり、本殿を右に見なが 居をくぐって社務所の前から石 の中、萌木色が心地よく展望を きた冠嶽が真北に見えた。快晴 に野間岳、この山と同じく南藤 に浮かぶ屋久島、東に桜島、西 に着く。展望は三六〇度見渡せ 駐車場に着く。 道標をたぐり峠 駐車場からは鳥

とは案内によると焼酎でもない。 ぶっかけた寿司なのだ。その酒 即注文した。要するに飯に酒を 知っていて、是非食べたいと思 がある。個人的には随分前から て指宿スカイライン経由で鹿児 てあった。芋クリームで仕上げ 日本酒でもない郷土の酒と書い っていたので、料理屋に入り、 こには有名な郷土料理、酒寿司 武家屋敷保存地区も尋ねた。こ 隊の記念館に二時間ほど費やし、 に寄ってみることにした。特攻 帰路は少し遠回りだが知覧町

つなのよりと。 チャーの勉強も山行の重要な一 そのうち一人いわく、リカル

参加者 西 佐藤 (秀)

車を取りに行き、

次なる目

あずさ

なった親子でした。このときの 然の出会いがかけがえのないも くれていました。この山での偶 ぎでこの日ばかりはヒーローと 場!名前は西穂高。小屋は大騒 力をする毎日でした。そこに一 がてら西穂高山荘のアルバイト があり重廣さん十八才の夏、ヒ メートル以上の滞在日数が世界 年会ではスライドとともにK2 遠い昔のお話です。 のとなりました。まだ上高地ま 出来事を重廣さんはよく覚えて 才のよちよち歩きの男の子登 で四十キロを超える食材のボッ 績を目の当りにしました!七千 正真正銘世界のクライマーの実 ただの飲んべなオヤジではなく ・・・面白いお話の宝庫でした。 やカンチェンジュンガ、マカル みになった重廣さん。去年の忘 小梨平で梓川の水が飲めた頃の での道路が完全舗装する前で、 マラヤ遠征に行くトレーニング 一長い人物とも言われています。 そんな立派な方にも若い時代 などのお話が出るは出るは・ 行事にはすっかりおなじ

て全国の山を登って五年目の今 ふるさとの富士とテーマを決め 二百名山、ふるさと名山探訪、 重廣さんは百名山に始まり、

> こと。三名のお姉様方は先に登 地は北九州の足立山・戸上山・ 良く耳にする言葉ですが広辞苑 り始めました。 予報は「雪」。駐車場で重廣さ 風師山。三月だと言うのに天気 六七ものピークがあるそうです。 です。二十万分の一の地図で六 川の流れを分ける山脈」だそう 年のテーマは『分水嶺の山』。 んの到着を待っている間の寒い てきました。 (三月四日) 目的 を引いてみると「二つ以上の河 記念すべき第一回目に同行し

えぬ雪景色でした。 る頃には足元は真つ白で、木々 尾根に出て砲台山をピストンす も雪をかぶり九州の春山とは思 き白いものが舞い始めました。 じんできた頃、激しい雷鳴が轟 の登山口から樹林に入り汗がに 発。妙見神社にお参りして左側 着した重廣さん一行とともに出 激しく降り続ける雪の中、妙 九時ちょうど。小倉駅から到

囲んで自己紹介。今回は十七才 立山山頂に向かう。 え隠れする関門海峡の景色に歓 折り青空が覗きガスの中から見 記念写真を撮っていました。時 んも珍しい若者の出現に一緒に の男の子が二人参加し、重廣さ 山頂に到着すると重廣さんを

という間に解け、 声が飛びます。 真っ白に山を覆った雪もあっ 黒土のどろど

く稜線の突風を思い起こしまし 宅地に出ました。下界の風も強 中でかわして一休み。 みぞれ混じりの雨をこの小屋の があります。折しも降り始めた 宮と七~八人が入れそうな避難 けが開けていて、戸上神社の上 頂は樹林に覆われ関門海峡側だ ら足立山頂上を目指します。山 流島を見下ろし、風と戦いなが した稜線を、左に関門大橋や巌 を受けながら草原状のゆったり 出ると足元がふらつくような風 返しはもちろん熱燗!樹林から 当をありがたく頂きました。お す。風を避けて鞍部でランチタ ろの縦走路を戸上山に向 イム。小竹のお姉様特製のお弁 小屋というか休憩所の様なもの かい

ました。

えて企教(きく)三山が見渡せ た足立山、戸上山に風師山を加 門大橋が真下に見え、本日歩い 手前のピークの風頭山からは関 けを持って山頂に向かいます。 だきました。近いのでカメラだ 付いているので利用させていた 地は風師山です。上まで車道



りしたあと、少し引き返して足

見神社の上宮の石段を登りお参

下山はぬかるんだ道を滑りな (戸上山山頂で)

がら、

泥だらけになりながら住

小竹、 参加者 置き手紙だったのか・・・。 佐藤 (秀)、佐藤 西 (あ)、 安藤夫妻、飯田、 西(孝)、伊 (正)、 加藤、一

土だけが、春まだ浅い山の雪の たのか・・・・登山靴に残る黒 前中の雪景色ははかない夢だっ にはすでに雪の気配はなく、午風師山の山頂から見る足立山

4

記 録

児玉 章良:衛藤 徹 郎

三日、 私の平成一二年の登山は一月 清川村の「御嶽」「エビ

三等三角点」。 岩扇山(四等)」、「牧の原台 重町の「合鴫山 (三等)」「小山」「大岩扇山 (三等)」、九 等)」「白岳」、雪の「角埋 ために「宝山(三等)」に。他 等)」に登った。同じく原稿の (四等)」「所小野山(四等)」に、ついでに「国見山 山(二等)」「大嶽山(三 に挟間町の「高長谷山(二 ため日田の「大将陣山(三 の「三宅山(三等)」に登った。 等)」「文殊山(三等)」、竹 国東の「西叡山 (二等)」「屋 (二等)」「天道山」「角埋山 二月になって百名山の原稿の

三月には「大祖山(四等)」 等) 」「大浪池」「中岳(四 ~九日、高校県体九州大会で鹿 泊して「女岳(四等)」に。八 等)」「十坊山(三等)」「二 等)」「高平山」。安心院町の 等)」「向平山」「鉄輪山(三 他には別府市の「吉備山(四 児島の霧島山系「烏帽子岳(三 **丈岳**(三等)」に、そのまま一 鹿児島県の「大野岳(三等) 「鏡山(三等)」「浮岳(二 七月は、定例山行で佐賀県 六月は三~五日、高校県体で 烏帽子岳(九州百名山)」 「新燃岳」「大幡山(三 「獅子戸岳」に登った。 「丸岡山」「夷守岳(三

ために「平家山(三等)」に登 院町の「米神山」、久住町の 等)」、湯布院町の「倉木山 障子岩(二等)」に登った。 等)」に。他に、緒方町の「前 野岳」「高千穂野」「荻岳(二 岳」「皿山」「大野岳」「大矢 ル大会で「高岳(三等)」「中 山」「雲ケ岳(一等)」、安心 「岩井川岳 (三等)」「原稿の (三等)」、宇佐市の「御許 九月は竹田市の「牧の城(三 「熊本インターハイ」リハーサ 「鹿嵐山(一等)」に登った。 八月は、五~六日、来年度の

等)」に登った。他には「大船 、二八~九日に高校県体新 の「和尚山(三

等)」。湯布院町の「立石山 等)」「砥石山」「米ノ山(四

「福万山(二等)」

め「横山(三等)」に登った。 湯布院町の「飛岳」、原稿のた

若杉山」「鬼岩谷山(一 四月は、定例登山で福岡県の 等)」。定例山行で「津島畑山 ず)」。庄内町の「時山(三

(二等)」「陣ケ峰(三等)」。

「鳥宿山(三角点は見当たら

(三等)」「二串山(三等)」

(四等)」。大山町の「高倉山 「上の山(三等)」、「丸岳 「ごしが岳」「丸塚(四等)」

「城山(三等)」、天瀬町の

原町の 人戦で津久見市の「尺間 「彦岳」に登った。他には 「妙音山(三等)」に登

の締めくくりとして中津江村の 町の「万丈塔」、 等)」「紫尾山」に登った。 あったが年間百山という目 狗ケ城」「中岳」「久住山」を 第一七回全国支部懇談会の「天 塚山」「七つ石山(三等)」 等)」「鳥屋岳 (三等)」「経 県の「藺牟田池外輪山(愛宕山 町の「大障子岩」、日田市の は解らなかった)」他には緒方 加えれば計一一一山登ったこと 岩」、日出町の「尼蔵岳(三 った。次の日、「昆岳(三 ついでに「冠岳(三等)」も登 岳:片城山(三等)」に登った。 :舟見岳 (三等) :竜石:山王 に高体連の登山研修会で鹿児島 「猿駈山(二等)」に登った。 「扇岳(三等)」、そして一年 「一ツ戸城山(四等)」、庄内 「板川山」「城山」、山国町の (三等)」、耶馬渓町の「不動 十二月は前津江村の「熊渡山 野津原町の

(三等)」「碁盤ケ岳 (三角点 十一月は津久見市の

私の無名山ガイドブック② 雨ガ池越から 九重の隠れた秘境

飯 田 勝

湯沢への稜線

の縁に沿って歩いてみたことがガ池越に下った後広い稜線の東坊ガツルに入り、三俣山から雨 このピークはちょっとした展望 となり、目の前に小ピークが迫樹林に踏み込み少し行くと茅野 た。そして数年前、鳴子川沿に は湯沢に向かって広い稜線が緩 ガツルが見わたせる。反対側に 台で、人の行き交う雨ガ池や坊 の頃からか食指が動かされてい んど平坦な草原に見えるので、 三俣山や平治岳から見るとほと び、湯沢で飯田高原に続いてい からはなだらかな稜線が北に延 急斜面で雨ガ池越に落ち、そこ る。獣道を登ると岩の点在する 一度は歩いてみたいと私はいつ る。この広いなだらかな稜線は 七曲りに向かって下る道から 一俣山の北側

むと、上から見ると平坦な草原 ピークから綴く下りながら進 に見えたこの稜線はアカ 7

茅野はすぐに終わりノリウツギ

いアップダウンで続いているの

から東に下った。天然林の斜面先を探勝するのを諦めて、鞍部 ろであった。 暮雨の滝の入り口に当たるとこ 道に出会った。ちょうどそこは 数分で坊ガツルから吉部に下る をまっすぐにどんどん下ると十 の日は時間の関係で、そこから い斜面で盛り上がっている。そ ると狭い鞍部となり、前面は高 な窪地が現れた。窪地の縁を下 辿って進むうちに目の前に大き 右に左にと歩きやすいところを 三度と緩くアップダウンしつつ、 九重の隠れた秘境である。二度 ど人跡未踏の感すら漂うそこは そして人の気配一つないほとん 富んだ稜線であることがわかる。 幾つもの窪地を持つ結構変化に やノリウツギの点在する茅 5

の西の縁をたどることにした。の斜面を登り、今回は広い稜線 がちらほらと目立つ雨ガ池越へ枯れ木の中にマンサクの花だけ 私は再びこの稜線歩きを思い立 いる猷道を辿って北に向かった。 で枯れた茅の中に縦横に出来て ん見あたらない。仕方がない 道とおぼしき物を探すがもちろ である。峠に登り着いて、古い これを探してみようという企画 示す波線が描かれているので、 プを見ると西に縁に沿って道を 昭和三十年代の古いガイドマッ 目標にして、長者原から入り、 った。この日は稜線歩きだけを そして今年の三月末のある日、

と広い茅野の中にアカマツが点 かかった。少し登って振り返る えていくと少し高い斜面にさし を分け、小さな窪地を幾度か越 感が漂う低木と茅野のブッシュ 辿って進む。人跡未踏の秘境の ねりながら歩きやすいところを の間を右に左に大きく曲がりく などの樹林に行き当たる。樹林 るものがある。 とした大きな日本庭園を思わせ バックにそびえる三俣山を借景 する広い稜線は、前回に東側と 中に踏み込むと、 違って随分歩きにくい。木々 転々と岩も見える風景は 低木が密集

したら昔の道の跡かもしれない、と前方に低い大きな窪地が現れた。その縁を巻くように西に進かす密集地に行く手を阻まれた。とが立る。と前方に低い大きな窪地が現れた。とが立る。とがはいが、しめたこれはもしかいたので、しめたこれはもしから昔の道の跡かもしれない、というでは、

こうに遠く見える。 うてい人間はおろか、獣ですら ミヤマキリシマとツゲやアセビ 窪地があるようで、こちらの窪 斜面の向こうにはもっと大きな 面に向かう。地図を見るとその とノリウツギで覆われている。 そう思ってしばらくそれを辿っ 回ってみる。こちらは多少歩き でびっしりと覆われて、それら 岩の点在する斜面は急でしかも ことにして取り付いてみると、 なっている。これを乗り越える 地と向こうの窪地を隔てる縁と かき分けるようにして前方の斜 の中に消えてしまった。再び窪 て行くとやがてそれはブッシュ 下った鞍部らしき所が窪地の向 どったとき暮雨の滝に向かって な窪地が現れた。前回東側をた 分けて登り越すと前に深い大き やすい。緩い斜面をブッシュを 進める所ではないことがわかっ てみたが、少し登っただけでと た。再び窪地の底に下り、西に をかき分け、がむしゃらに登っ 窪地はかな

形的にも方角的にも標高点は近窪地の縁を下って回り込み、地 どブッシュでない緩斜面を上り なしている斜面となった。さほ 三三三回の標高点を踏むことが今 り深い。深い窪地の北にある一 を遮られて、そのたびに大きく 何度か猛烈なブッシュに行く手 避けながら右に左に登っていき をとる。ミヤマキリシマの株を 詰めると東西に延びる広い稜線 日の一つの目的であった。大き 望まれ、平治岳の北斜面の大窓 三三m標高点である。茅と低木 三角点が埋められていた。一三 現れ、その中央に真新しい四等 と、ひょっこりと小さな広場が 野で覆われた斜面を登っていく かにもいたのだ。なだらかな茅 なところを歩く物好きが私のほ プが二つ三つ目についた。こん 木の枝に古い赤いビニールテー いと思われるあたりにきたら、 の上に出た。ここから東に進路 の下にミヤマキリシマが群れを い茅野を巻いていくとアカマツ く西に回って比較的に歩きやす ることが出来た。 の向こうに花牟礼の山並みも見 三俣山、大船山、平治岳の頂が に覆われたこの平凡なピークは

と茅野の中を小さくアップダウドやミヤマキリシマなどの低木むことにした。リョウブやヤナむことにした。リョウブやヤナむことにした。リョウブやヤナむことにした。リョウズやヤナむことにした。リョウズや大ちが

出た。少し辿ってみてわかった 線上のスギの造林地内をどんど 地となり、さらに進んで地図を を進むとやがてカラマツの造林 林地の境界を示す土塁や花崗岩 り、ヒノキの造林地が現れた。 すぐ進む。少し行くと平らにな 線歩きと決めているので、目印 だが、今日の目的は湯沢まで稜 斜めに東に下っている。どうや 線上になり、目印はその稜線を 原生林となり、急斜面をどんど カエデやブナ、ハリギリなどの の下りとなった。周りはモミや やがて小ピークを超すと急斜面 向かって下り、長者原に引き返 西側下方に見える吉部の民家に きの意味も感じなくなったので 稜線を進むと地熱開発試掘ボー 行っていたときの工事用の道ら 開発のための試掘ボーリングを のだが、これは数年前まで地熱 ん進むといきなり荒れた林道に 探すが特定できない。諦めて先 見ながら一一八五mの標高点を の石柱を見ながら薄暗いヒノキ から逸れて広い稜線の上をまつ ら下の登山道に下っているよう ん下っていくと一旦緩やかな稜 ンしながら少しづつ下っていき はさらにスギの造林地で稜線歩 リングの跡に出た。そこから先 ツの点在する猛烈なブッシュの しい。再び稜線に帰ってアカマ に進む。ほとんど平らな広い稜

等三角点のあるピークまでが九雨ガ池からの稜線歩きは、四

(二万五千分の一地図…湯坪、ところだと思う。 重の隠れた秘境として楽しめる

点→ (一:二〇) →吉部民家(一:〇〇) →一三三三m三角点→参考タイム 雨ガ池越→(二:参考タイム 市ガ池域→(二:

部総会終わる

会(石川県)など。 な事業計画は、『新日本山岳 て審議され決定を見ました。主 計画(案)、予算(案)につい 認された後、二〇〇一年度事業 算報告、監査報告が行われて承 長に宇津宮副支部長を選出し、 名(うち委任状 催されました。出席者は ホール』(4F視聴覚室)で開 から大分市府内町の『コンパル る四月二一日*(土)午後六時 発行)、第一八回全国支部懇談 実施計画、会報の発行(年4回 や支部役員会の予定、月例山行 誌』編集委員会等本部関係会議 二〇〇〇年度事業報告、会計決 二〇〇一年度の支部総会が去 名)で、

を募ること、青少年の育成、中ための執筆、編集参加者の希望府湾リレー登山のルート紹介のまたその他の議題として、別

くことになりました。 通じて関係機関等に提起してい 告され、今後なんらこの機会を 山料徴収等について問題点が報 チック製階段の問題、男池の入 鶴見岳北尾根馬の瀬下のプラス や岩に落書きが目立つことや、 に自然保護関係では、山の樹木 高年登山指導、自然保護活動等 についても議論されました。特

千円から一万円程度) ることになりました。 計画も出され、今後希望者を募 (支部の名前入り)を特注する また、日本山岳会のハッピ (一枚九

五月二七日 〈一二年度月例山行計画〉

国見岳 (熊本県) 1,793m (重 廣『分水嶺』)

七月二九日 六月一〇日 八月二六日 三方岳 (宮崎県) 1,479n 剣山(徳島県) 1,954m 男鈴山(宮崎県)

九月九日 寂地山(山口県) 1,337m(重

廣『分水嶺』)

〇月一四 天包山1, 188m (宮崎県) B

夷守山(宮崎県) 1,344m 一月一八日

二月八九日

月二七日 黒岳1,587m(重廣『分

本谷山 (大分県) 1,643m (重

廣『分水嶺』) 総会の返

信より

三月二四日 二月二四日 青野山(山口県)907m 可愛岳(宮崎県)727m * (山行予定は事前に変更に こともあります。)

私の四〇周年記念山行

連載することとします。 報連載は報告書到着の順に順次 務局まで提出してください。会 〇字程度にまとめた報告書を事 そこで各会員は、おおむね八〇 報に連載することになりました。 総会では各人の報告書として会 することになっていましたが、 け、その結果を支部総会で報告 ○周年記念山行』として位置づ 行う山行のうち一つを『私の四 成一二年度中に各会員が個人で 支部創立四〇周年山行は、平

めざしています。ただいま九八

山。花を追いながら登っていま

郵送…大分市府内町

FAX…O九七一 五三二一〇九二六

サニースポーツ

ー三ー一六

Eメール… kiida@fat. coara. or. jp

提出期限 五月末まで

(総会報告の項…文責 飯田)

> れキャンプと考えています。 した。そろそろ九重山系へ子連

期総会が成功裡に終わることを と思っています。その折にはよ ます。いつの日にか帰州出来る 祈っています。 ろしくお願い申し上げます。定 参加できずに心苦しく思ってい 勤となり一度も総会、例会等に 秋満信夫さん 入会と同時に転

うになるでしょう。 うち、ベテランの方と登れるよ ところを練習しています。その 眠から覚めず不調。家内と猪群 安部可人さん 例年春は腰が冬 石川洋佑さん 九州百山完登を 山、彦岳など大分百山の未 n

九門へ子供を連れて登ってきま 先日壱岐最高峰の岳の辻(三一 あり、いつも考えさせられます。 しすれているような気がしまし より、国境近くのネパリーは少 岳地域でのネパリーとの交流に ンビニにて一泊。一九年前の山 井手隆尚さん 三月にインド仏 た。ヒンズー教でのカーストが マンドウより南西三〇〇kmのル 跡地巡拝をしてきました。カト

> 甲斐隆さん 日)姫島の矢筈岳に登りました。 先日 (三月二〇

峠ー大矢野岳ー駒返峠までと清 を続けて登っている。鞍岳、 加藤英彦さん 現在阿蘇外輪山 ームシ山、俵山一冠ケ岳ー地蔵

で行きました。東上線沿線は低 昔の良さは失われつつある。 下まで車は入れるようになった。 栄山を登っている。地蔵峠の直 山ですが近くて見晴らしがよい。 木本義雄さん大平山は家族五人

思っております。体力づくりを ら一度皆さんとご一緒したいと になります。機会がありました 斉藤サカエさん いつもお世話 しておきます。

二一~二三日に佐賀の虚空蔵山 黒髪山、青螺山に行きますので を中心に登っております。四月嶋津義久 月に二~三回、九州 総会は欠席させていただきます。

と思っています。同伴者を捜し 蓮谷義雄さん 参加できずに申 アケボノツツジの花に会いたい は傾山(杉ガ越コース)行って くの山に行けませんが、四月に 園田暉明さん 仕事の関係で遠 し訳なく思います。九重、 ています。 方面を楽しんでいます。 阿蘇

> るまで麓に着けるか心配でした。 にほっとしました。 硫黄の噴煙が見えたときは本当 持ちがかなり動揺し、日が落ち 原温泉に下りました。一時、気 り下ってまた登りが大変と、塚 鶴見の方へ行きかけたけどかな いのですが、帰りはどうするか、 トを行きたくて、行ったのは良 に一人で扇山から内山へのルー 牧野信江さん 今年二月十一日

ツ

めと老年を楽しんでいます。 山、漁業(魚釣り)、平日は勤 渡部昭三さん 土日は農業か登



おススメ映画 『ザ・カップ』

あずさ

一夢のアンテナー

となりました。『ザ・カップ』 月上映をご期待下さい。 皆さんに見ていただきたい!六 見ましたよ。笑いましたよ。そ していやされましたよ!。早く 『キャラバン』と続き、四作目 『バーティカル・リミット』 おススメ映画も『クンドウ』

ブータンという国をご存じで

ヒマラヤ山脈の東部、

よりどころにしています。 なので当然チベット仏教を心の 州より一回り広い国で、長い間 す。国民の七五%がチベット系 近な国とは言い難い神秘の国で 年から外国人観光客を受け入れ 鎖国をしていました。一九七四 インドとチベットの挟まれた九 千人前後に限っているので、身

品ではなく、チベット仏教を知 として映画作りに関わり、「ブ ないほど位の高い僧侶のケンツ る魅力なのでしよう。 自然さがスクリーンからあふれ 作品なので、誇張や飾りのない り尽くした高僧(監督)による です。僧院の外部の手による作 画を作る勇気が湧いてきたそう は世界中の人々と分かち合うべ ッダ』を撮る際にアドバイサー ベルトリッチ監督の『リトルブ エ・ノルブ氏で、ベルナルド・ はブータンでは知らない人はい 映画が届きました。監督、脚本 チベット仏教の僧院から初めて き物語がたくさんある」と、映 ータン、そしてチベット文化に そんなブータンから、しかも

驚きです。 お話がほとんど実話というので く瞳が印象的な作品です。この に時が流れ、修行僧の純粋な輝

ません。 大騒ぎしていることが理解でき うことか・・・小坊主さん達の 国同士が戦うというのはどうい 長はカップ(おわん)を巡って ワールドカップを知らない僧院 の種です。サッカーの楽しさや お勤めも上の空で、先生の悩み なっている中、小坊主さん達は 世界中がテレビ中継に釘付けに サッカーのワールドカップで

とが出来ました。 ラアンテナとテレビを借りるこ は新入りのニマがお母さんから 五十ルピー足りません。ウゲン から許可が出ます。しかし小坊 とを約束して先生が僧院長に頼 これから真面目にお勤めするこ 談判に向かいます。ダメもとで ても決勝戦が見たくて先生に直 こともできないウゲンはどうし しまったので、民家に見に行く 抜け出して観戦したのがばれて し、お陰で僧院に大きなパラボ 託された金時計のことを思い出 主さん達のお金をかき集めても んでくれました。寛大な僧院長 いよいよ決勝戦の日、僧院を

> ながら、くりくり頭の小坊主さ のが大変だったと言います。 チベット仏教ニンマ派の最高位 べて占いによって進められ、出 中での二カ月限定の撮影は、す お楽しみください。 院長と先生の慈愛に満ちた眼差 ん達の織りなす人間模様と、僧 合いのけんかをする相手を捜す した存在なので、彼と取っ組み の僧でほかの僧とは一線をかく ンの悪友のロドウ役のネテンは 演も実際の修行僧。しかもウゲ し、暖かでピュアな心の交流を のどかなチベットの風を感じ

を持っていくと二〇〇円引きで から一五日まで。同封のチラシ 府内町シネマ5にて六月二日

お 知 5 せ

五月月例山行の ご案内

目的…国見岳 (1739m) (熊本県)

三食分の食事とシュラフ、テ 二日山行出来る方は二六日朝 日時…五月二六、二七日 時にサニー出発予定。 一日のみの方は二六日午後八

山では春の雪。

四月の雪道を歩こうと、

冷たい雨と風の荒天でしたが

三月三〇、

三一日と里では

六月月例山行の

した。稜線は積雪一〇センチ 日に鶴見岳北尾根に出かけま

珍しい春山の光景でし

啓蟄を過ぎた後の山はすっ

サッカー小僧の毎日を送ってい

けサッカーをするは、まさしく

ー観戦して追い出されるは、賭

夜中に抜け出して民家でサッカ

ば空き缶でサッカーをするは、 でいると思いきや、暇さえあれ 厳しい戒律の中、お勤めに励ん

試合が始まり、静かな僧院に

ラマ教の僧院の小坊主さん達

ます。ヒマラヤの山懐に穏やか

になるウゲンは・・・。

になるニマと、ニマの様子が気 を見せる中、金時計のことが気 院長も観戦に加わり盛り上がり 歓声がこだまします。先生と僧

> 目 的…男鈴山 (873m) (宮崎県)

許可の厳しいチベット寺院の

九日午後六時サニー出発予定 日時…六月九、十日 三食分の食事とシュラフ、テ

注意下さい。 を間違える方がいますのでご 番号を書いておきます。金額 払い込みを。振り込み用紙に 納の方は、一年分(千円)の 定期総会欠席で、支部費素

二年分一名、三年分二名とな っています。 (二月五日現在) 一年分二名 本部より、会費未納の方が

局へお知らせ下さい。 参照)五月十五日までに事務 用の方は(定期総会報告の覧 ハッピ(日本山岳会)ご入

お願いします。 照)は出来れば五月末までに 告』(定期総会報告の覧参 『私の四十周年記念山行

岳会東九州支部報

20 4月25日 1年 (平成13年)

木 秀 田 勝 870-0021 徳之 発行者 梅 編集者 発行所 飯干

大分市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子 TEL・FAX 097-532-0926 佐藤正八 孝子方

ちしています。 員の個人的山行の投稿もお待 れ計画があるようです。 に、アケボノツツジに、ミヤ の主役たちが先を争っていま かけました。 突然の寒波で、白い雪の上に マキリシマにとみんなそれぞ す。カタクリに、シャクナゲ あちこち仮死状態の昆虫を見 かり春の到来であったのに、 支部月例山行に限らず、会 桜も終わり、山では次の花